

平成26年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立緑が丘小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成26年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成26年4月22日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A 65人 国語B 65人

② 算数A 65人 算数B 65人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

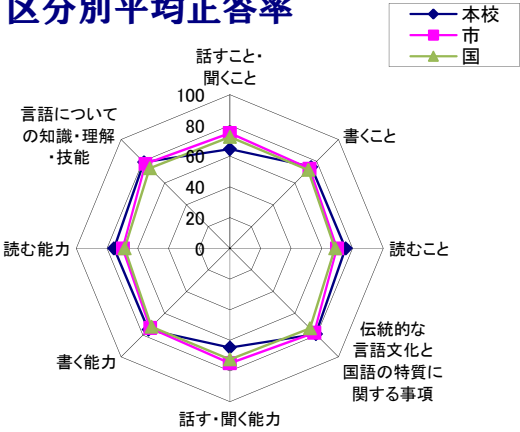
(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【国語】分類・区分別平均正答率

★本年度の国、市と本校の状況

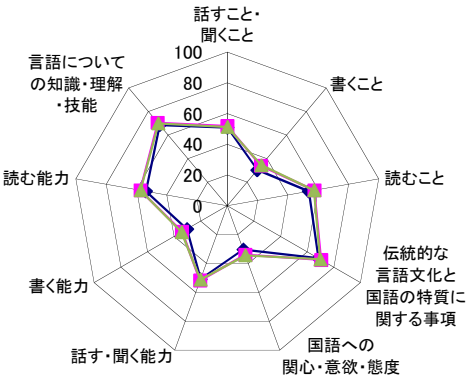
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	64.6	74.9	72.4
	書くこと	74.9	73.4	72.2
	読むこと	75.4	69.7	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.1	77.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	64.6	74.9	72.4
	書く能力	74.9	73.4	72.2
	読む能力	75.4	69.7	68.5
	言語についての知識・理解・技能	79.1	77.8	73.7



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	50.8	51.9	51.2
	書くこと	30.3	34.0	34.4
	読むこと	53.8	57.5	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.5	70.5	69.8
観点	国語への関心・意欲・態度	30.3	34.0	34.4
	話す・聞く能力	50.8	51.9	51.2
	書く能力	30.3	34.0	34.4
	読む能力	53.8	57.5	57.3
	言語についての知識・理解・技能	68.5	70.5	69.8



★国語に関する質問紙調査の状況

・「国語の勉強は大切だと思いますか。」と「国語の授業で学習したことは、将来、社会にでたときに役に立つと思いますか。」の質問では、肯定的に思う児童が90%を超えていて、前向きに国語の授業に取り組んでいることが分かる。

・授業では「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている」ことや、「発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している」など、自分の考えを伝えることに意欲的に取り組んでいる。

★指導の工夫と改善

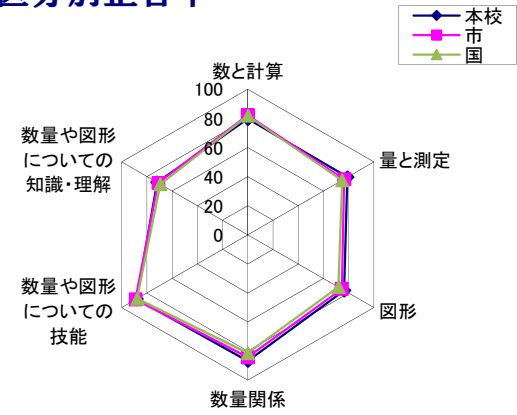
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	A 話し合いの記録の仕方として適切なものを選択する設問の平均正答率は、全国平均より7.8ポイント低い。話し合いの観点に基づいて情報を関係づけることに課題が見られる。 B 司会の発言の内容をまとめて書く設問の平均正答率は、全国平均より4.0ポイント高い。目的に応じて、話し合いの観点を整理することに一定の成果が見られる。	・話し合いを行う際、出された意見と観点を関係づけて、図に分類したり、表にまとめたりする作業を行い、定着を図る。また、他の教科でも話し合いの内容をメモやノートに整理するようにさせる。
書くこと	A 「～たり、…たり」という表現に直して書く設問の平均正答率は、全国平均より8.2ポイント高い。複数の事柄を並列の関係で書くことには一定の成果が見られる。 B 他者の発言に対し、書き手の立場から質問か意見を書く設問の平均正答率は、全国平均より8.3ポイント低い。文中の言葉を引用してまとめて書くことに課題が見られる。	・必要に応じてメモを取り、取り上げられた内容について、自分の考えとの共通点や相違点などを整理した上で、自分の考えをまとめるようにさせる。さらに、目的に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりいろいろな書き方を学ばせる。
読むこと	A 物語の一部に入る適切な人物の名前を書く設問の平均正答率は、全国平均より10.1ポイント高い。物語の登場人物の相互関係を捉えることに一定の成果が見られる。 B 目次や索引の中から必要となるページ番号を書く設問の平均正答率は、全国平均より7.5ポイント低い。詩の解釈として適切なものを選ぶ設問の平均正答率は、全国平均より8.5ポイント低い。課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むことと、詩の解釈における着眼点の違いを捉えることに課題が見られる。	・調べ学習などを行う際に、課題の解決のため、どのような方法で必要な情報を収集するとよいか、解決の見通しをもって本や文章を読ませる。その際、十進分類法の概略や本の配置、目次や索引の使い方、事典などの特色などを知り、発達段階に応じて指導し、身に付けさせる。学校図書館司書業務嘱託員とも協力し授業を行っていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	A 漢字の読み書きに関する設問の平均平均正答率は約86.2%で、全国平均より4.9ポイント高い。漢字を正しく読んだり書いたりすることに一定の成果が見られる。 B 詩の表現の特徴として適切なものを選択する設問の平均正答率は3.5ポイント低い。詩を読み比べて読み、表現の工夫を捉えることに課題が見られる。	・詩の内容や表現の工夫を捉えるため、比喩、反復、擬態語などの表現や、常体と敬体との違い、表記の仕方、連の構成などについて具体的な事例を示しながら指導し、言葉の使い方に対する感覚を豊かなものにさせる。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

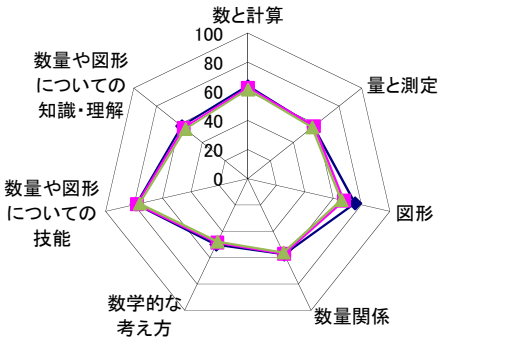
【算数A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	79.6	82.2	81.8
	量と測定	79.0	76.4	74.8
	図形	76.5	74.5	71.8
	数量関係	86.7	84.2	81.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能	88.3	89.1	87.9
	数量や図形についての知識・理解	72.0	71.1	69.5



【算数B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	数と計算	63.7	62.6	61.3
	量と測定	57.5	58.0	56.5
	図形	75.4	67.5	65.7
	数量関係	57.5	57.1	56.2
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	50.0	48.6	47.8
	数量や図形についての技能	78.5	78.1	76.2
	数量や図形についての知識・理解	57.9	56.3	54.8



★算数に関する質問紙調査の状況

- ・「算数の勉強は大切だと思いますか。」と肯定的に思う児童は98.4ポイントで、「将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。」では、肯定率が96.9ポイントと非常に高い。
- ・算数の質問事項から児童の様子を考えると、授業など前向きに問題に向かう姿や、よりよい方法がないか考える姿が読み取れる。

★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	A 示された図を基に1.2倍、0.4倍のテープの長さを求める設問の平均正答率は、全国平均よりそれぞれ5.7、7.9ポイント低い。基準量、割合、比較量を表す図の理解と小数の乗除の意味理解に課題が見られる。 B 40人分のご飯を分けるとき、10人分の目安を表している図を選ぶ設問の平均正答率は全国平均より4.8ポイント高く、数を相対的に捉えることに一定の成果が見られる。	・場面から数量の関係をとらえ、乗法を適切に使えるよう、問題文に線を引いたり、数直線を用いて考えたりさせる。また、問題を解くだけでなく、どのように求められるのか説明する活動を取り入れ、乗法の意味の理解を深める。
量と測定	A 二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場面と図との関連付けを見つける設問の平均正答率は、全国平均より2.3ポイント高い。しかし、単位量当たりの大きさの求め方を問う設問では、平均正答率が70%以下と、単位量の大きさに課題が見られる。 B 示された情報を基に、条件に合う時間を求める設問の平均正答率は、全国平均より9.4ポイント低い。日常生活の中で必要となる時刻や時間を求めることに課題が見られる。	・条件に合った時間を求める問題については、与えられた情報や条件を図の中に表し、整理するようにさせたい。そして、時間の増減について筋道を立てて考えさせる。また、児童の日常生活にある具体的な問題を与え、身近にある問題だと感じさせる。
図形	A 立体図形とその見取り図の辺や面のつながりや位置関係について理解しているかを問う設問の平均正答率は、全国平均より10.6ポイント高く、一定の成果が見られる。 B 畳の敷き方の約束を基に、残り4枚の長方形の板を置いた図形をかく設問の平均正答率は、全国平均より9.7ポイント高い。示された条件を基に、図形を構成することに一定の成果が見られる。	・図形の作図について、作図の手順を指導するだけでなく、その作図が図形のどのような約束や性質を使っているのかを考えさせ、それを基に作図できるように、手順を話す機会を作り、定着させる。
数量関係	A 四則の混合した式の意味を理解しているかを問う設問の平均正答率は、全国平均より9.8ポイント高い。四則の混合した式や()を用いた式についての理解に一定の成果が見られる。 B あるリズムを3回目に演奏するのは何小節目かを書く設問の平均正答率は、全国平均より2.2ポイント低い。繰り返し出現する事象から規則性を読み取ることに課題が見られる。	・解決方法を説明する問題を多く取り入れ、問題解決に用いる情報を書きだしたり、組み合わせを作ったりすることで、解決の筋道を明確にできることを指導していく。また、解決方法を説明させる機会を作り、話すことでより分かりやすい説明ができるようにさせる。

宇都宮市立緑が丘小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向

○良好なもの ●課題が見られるもの

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」の設問では、肯定的な回答が100%であった。
○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか」では、肯定的な回答が全国平均を15.7ポイント上回っている。
○「自分には良いところがある」という回答は、全国平均を23.5ポイント上回っている。
○「家で、学校の授業の復習をしている」という回答は、全国平均を10.4ポイント上回っている。
○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の設問について、肯定的な回答は96.9%とほぼ100%に近く、全国平均を10.3ポイント上回っている。
○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」の設問では、肯定的な回答が95.4%で、全国平均を8.9ポイント上回っている。
○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」では、全国平均を14.6ポイント上回っている。
○「友達との約束を守っている」という回答は、肯定的な回答が100%であった。
○「テレビやのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか」(携帯やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む)では、全国平均を7.7ポイント上回っているが、携帯電話やスマートフォンを持っていない児童の割合は、66.2%で、全国平均を19.9ポイント上回っている。